

6. 【平成 28 年度第 4 四半期】**学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等〈概要〉****1. 日本学術会議主催学術フォーラム【今回提案無し】**

- ・経費負担を要するものは、原則として年間 10 回程度
※既に 5 件決定済（第 1～3 四半期開催分）
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等【今回提案 3 件】

- ・各年度 32 回まで（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）
※既に 26 件決定済（第 1～3 四半期開催分）（日本学術会議主催学術フォーラムを含む）
- ・四半期ごとにおおむね 8 回（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案 10 [p.2-3]	公開シンポジウム「研究活動とジェンダー—人文社会科学系学系学協会における男女共同参画推進に向けて」	平成 29 年 1 月 21 日(土)	第一部総合ジェンダー分科会
2	提案 11 [p.4-5]	公開シンポジウム「現代社会における分断と新たな連携の可能性：階層・世代・地域・民族・情報の視点から」	平成 29 年 1 月 28 日(土)	社会学委員会フューチャー・ソシオロジー分科会
3	提案 12 [p.6-7]	公開シンポジウム「健康社会にむけた多次元脳・生体イメージングの総合的推進」	平成 29 年 1 月 22 日(日)	基礎医学委員会神経科学分科会、形態・細胞生物医学分科会、機能医科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会

注： 職員の人的支援はなし

6. 【平成 28 年度第 4 四半期】

学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等〈各提案〉

提案 10

公開シンポジウム「研究活動とジェンダー—人文社会科学系学協会における
男女共同参画推進に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
2. 共 催：(第一部のジェンダー関連分科会との共催を予定)
3. 後 援：(関係学協会の後援を依頼予定)
4. 日 時：平成 29 年 1 月 21 日 (土) 13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

第一部総合ジェンダー分科会では、研究活動におけるジェンダー平等を促進するために、人文社会科学系学協会との連携を強化し、各学協会における男女共同参画を推進することを目的として、分科会活動を行っている。

2016 年 3 月 6 日には、「若手研究者養成をジェンダー」と題するシンポジウムを行い、文部科学省、男女共同参画学協会連絡会、若手研究者、人文社会学研究者をシンポジストに迎え、若手研究者養成にどのようにジェンダー視点を反映させ、ジェンダー平等を実現していくのかについて議論を行った(このシンポジウムについては、『学術の動向』に掲載予定)。

今回は、第 2 弾として、人文社会科学系学協会における男女共同参画の取り組みのグッド・プラクティスを紹介することで、それらのグッド・プラクティスを多くの学協会に普及させていくための方法を検討することを目的にシンポジウムを開催する。第 2 部ではできるだけ多くの人文社会科学系学協会の責任者に参加いただき、今後の学協会における男女共同参画推進のための連携を強化していくことを目指す。

8. 次 第：

あいさつ・趣旨説明：後藤弘子*(日本学術会議第一部会員・千葉大学大学院専門法務研究科教授)

第 1 部

「人文社会科学系学協会男女共同参画に向けて」

辻村みよ子(日本学術会議連携会員、明治大学法科大学院教授)

「自然科学系男女共同参画連携会議について」

小川温子(お茶の水女子大学副学長) 交渉中

「日本哲学会での理念と実践」

加藤泰史(一橋大学社会学研究科教授)

「J-WENでの取り組み」

臼井恵美子（一橋大学経済研究所准教授）
司会 窪田幸子*（日本学術会議第一部会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

第2部

「人文社会科学系学協会の調査から」

和泉ちえ*（日本学術会議連携会員、千葉大学文学部教授）

「日本学術会議の男女共同参画に向けた活動と会員の意識」

井野瀬久美恵*（日本学術会議副会長、甲南大学文学部教授）

各学会責任者からの応答

巽孝之*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部教授、日本アメリカ文学学会会長）

佐藤岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授、日本法社会学会）他

討論：コーディネーター 伊藤公雄*（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

まとめ： 本田由紀*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「現代社会における分断と新たな連帯の可能性：
階層・世代・地域・民族・情報の視点から」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会フューチャー・ソシオロジー分科会
2. 共 催：社会学系コンソーシアム
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成29年1月28日（土）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：1980年代以降、情報化とグローバル化の進展に伴って社会的相互依存が深まる一方で、現代社会にはさまざまな亀裂が生じている。第二次世界大戦後、いったん縮小するかに見えた格差は再び増大する傾向を見せており、格差は階層間にとどまらず、世代間・地域間にも及んでいる。EU 離脱をめぐるイギリスの国民投票、日本の参議院議員選挙、そして米国の大統領選挙から見えてくるのは、これらの格差が社会的分断にまで発展する可能性である。シンポジウムでは、階層・地域・世代・民族・情報という多角的な視点から、現代社会で進行している格差や分断のメカニズムを検証するとともに新たな連帯の可能性を探る。

8. 次 第：

開会挨拶 13:00-13:05

遠藤薫*（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

司会・オーガナイザー 13:05-13:15

正村俊之（日本学術会議連携会員、大妻女子大学社会情報学部教授）（予定）

報告

1. 階層 13:15-13:40

「国際比較からみえる日本社会の階層間格差」

竹ノ下弘久（上智大学総合人間科学部教授）

2. 世代 13:40-14:05

「子供の貧困と格差の再生産」

阿部彩（日本学術会議連携会員、首都大学東京都市教養学部人文社会系教授）

3. 地域 14:05-14:30

「平成の大合併以後の「国家のリスケーリング」」

丸山真央（滋賀県立大学人間文化学部准教授）

4. 民族 14:30-14:55

「ヨーロッパにおける民族的＝宗教的な対立と多文化共生」

宮島喬（日本学術会議特任連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）

5. 情報 14:55-15:20

「ソーシャル・メディアと新しい民主主義の可能性」

前嶋和弘（上智大学総合グローバル学部教授）

コメンテータによる討論 15:30-16:00

1. 矢澤修次郎* (日本学術会議連携会員、一橋大学名誉教授)
2. 安達智史 (近畿大学総合社会学部専任講師)

全体討論 16:00-16:55

閉会挨拶 16:55-17:00

野宮大志郎* (日本学術会議連携会員、中央大学文学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は主催分科会委員)

公開シンポジウム「健康社会にむけた多次元脳・生体イメージングの総合的推進」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、形態・細胞生物医科学分科会、
機能医科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
2. 共 催：日本脳科学関連学会連合
3. 後 援：医歯薬アカデミー（予定）
4. 日 時：平成 29 年 1 月 22 日（日）13:30～17:20
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定（上記 4 分科会の合同分科会）

7. 開催趣旨：

多領域・多階層の構造・機能データを取得するために必要とされるイメージング技術、プローブ技術、それらを支える物理・化学的基盤の進歩は著しい。さらにこのような技術を利用して得られる大規模データを解析するための数理科学的な手法についても多くの進展がみられる。我が国は、光学機器やイメージングプローブ開発、これらを利用したイメージング研究では世界をリードする位置にある。一方で、欧米等ではイメージングセンターが多額の投資により設立され、物理・工学・数学・情報学から基礎医学、臨床医学、創薬への応用までを網羅した中核機関として機能し始めている。このような中核機関をハブとして、データベースの構築、ビッグデータの活用など、研究、教育、開発を体系的に行い、先端研究と同時に疾患の克服などの社会のニーズに答えるシステムが確立されつつある。熾烈な国際競争に打ち勝つため、今、求められているのは、我が国の生命科学研究者コミュニティが一丸となった取組であり、イメージング科学の総合的な推進とそれを応用した臨床医学、特に精神・神経疾患の克服への活用である。本シンポジウムでは、脳や生体のイメージングとその応用について、現状でどこまで大規模・高速・高精度な読み出しが可能となっているのか、その技術を利用して解くべき生物学・医学的に重要な課題は何か、についての議論を行う。加えて、健康社会の実現に活かすイメージングセンターとそれを支えるオールジャパンのネットワークの枠組みについても議論を行う。

8. 次 第：

司会 岡部繁男*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

13:30 開会挨拶

本間さと*（日本学術会議第二部会員、北海道大学脳科学研究育センター招聘教授）

第 1 部

13:35 イメージング技術と脳科学研究

伊佐 正（京都大学大学院医学研究科教授）

14:05 多階層イメージング研究について

廣川信隆*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科特任教授）

- 14 : 35 動物研究と生体イメージング
鍋倉淳一*（日本学術会議連携会員、自然科学機構生理学研究所教授）
- 15 : 05 休憩
- 第2部
- 15 : 15 ヒト研究と生体イメージング
定藤規弘*（日本学術会議連携会員、自然科学機構生理学研究所教授）
- 15 : 45 脳・生体イメージングにおける技術革新
宮脇敦史（理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー）
- 16 : 15 脳・生体イメージングの創薬への展開
萩原正敏*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科教授）
- 16 : 45 脳・生体イメージングとトランスレーショナルリサーチ
笠井清登*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）
- 17 : 15 閉会の挨拶
山脇成人*（日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

7. 6以外のシンポジウム等〈各提案〉

提案 1 3

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会
「生命・環境・ものづくり～基礎科学からの発信」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議

2. 共 催：岐阜大学

3. 日 時：平成 28 年 12 月 2 日（金）13:00～16:10

4. 場 所：岐阜大学講堂（岐阜市柳戸 1 番 1）

5. 開催趣旨：

岐阜大学は、教育の基盤としての質の高い研究活動をそれぞれの分野で着実に実践している。その中でも本学の強みである生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野においては、独創的な研究領域の先進的研究拠点形成を目指し、努力している。本講演会では、その成果の一部を紹介する。

6. 次 第：

(1) 開会挨拶

13:00～13:10 森脇 久隆（岐阜大学長）

(2) 主催者挨拶

13:10～13:20 高橋 雅英（日本学術会議第二部会員・中部地区会議代表幹事、名古屋大学大学院医学系研究科長）

(3) 科学者との懇談会活動報告

13:20～13:30 丹生 潔（中部地区科学者懇談会幹事長、名古屋大学名誉教授）

(4) 講演

13:30～15:55

・演題未定

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

・「植物の酸性土壌耐性機構：世界の食糧問題を解決する鍵形質」

小山 博之（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部生物生産科学講座教授）

・「アルケンの立体化学を制御する」

安藤 香織（日本学術会議連携会員、岐阜大学工学部化学・生命工学科教授）

(5) 閉会挨拶

16:00 小嶋 智（日本学術会議連携会員、岐阜大学工学部社会基盤工学科教授）

日本学術会議東北地区会議主催学術講演会
「大学を通じた地方創生～大学の知と技術の活用」の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議
2. 共 催：山形大学
3. 日 時：平成 28 年 12 月 13 日（火）13:00～16:20
4. 場 所：山形大学小白川キャンパス基盤教育 2 号館 211 教室
（山形市小白川町 1 丁目 4-12）

5. 開催趣旨：

山形県は、全国に誇れる高品質な農畜産物（米、さくらんぼ・ぶどうなど果樹類、黒毛和牛、三元豚など）や加工食品の生産、また情報通信機械、電子部品・デバイス、化学、繊維などの工業製品の生産を主産業に、グローバルに産業振興が図られてきた。東北圏内有数の中小企業による「ものづくり」が盛んな地域となっている。本講演会では、このような特長豊かな東北・山形の産業資源を全国・国外へさらに拡充するための地方産業イノベーションや、産業イノベーションによる地域活性化に寄与する「知の拠点・山形大学」の取り組みや研究の紹介をするとともに、「山形の豊かな未来」について考えたい。

6. 次 第：

(1)開会挨拶

13:00～13:10 小山 清人（山形大学学長）

(2)主催者挨拶

13:10～13:30

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

庄子 哲雄（日本学術会議第三部会員・東北地区会議代表幹事、未来科学技術共同研究センター・教授）

(3)基調講演

13:30～14:10

・「地方特産物の輸出動向や課題などについて」（仮）

講演者：日本貿易振興機構（JETRO）関係者（調整中）

(4)講演会

14:10～15:50

・「有機材料システムの活用による産学官連携のイノベーション」（仮）

城戸 淳二（日本学術会議連携会員、山形大学工学部教授、有機材料システムフロンティアセンター長）

・「地域特産果樹の収穫後管理と品質」（仮）

村山 秀樹（山形大学農学部教授・副学部長）

・「女性の活躍と地域活性化」もしくは「人材多様化による地域活性化」（仮）

河野 銀子（日本学術会議連携会員、山形大学地域教育文化学部教授）

(5) 質疑応答

15 : 50～16 : 20

(6) 閉会挨拶

山形大学関係者（調整中）

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会
「琉球列島ーその自然の豊かさ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：琉球大学
3. 後 援：沖縄県、沖縄県教育委員会、公益財団法人日本学術協力財団、
沖縄科学技術大学院大学、一般財団法人沖縄美ら島財団
4. 日 時：平成 29 年 1 月 16 日（月）15:00～17:00
5. 場 所：那覇市内（調整中）
6. 開催趣旨：
琉球大学などでは、亜熱帯に位置する琉球列島における生物の多様性やその背景にある
様々な生命現象及びそれらに関する研究を行っている。本講演会では研究の成果や取り組
みを紹介するとともにこれらについてのパネルディスカッションを行い、琉球列島におけ
る自然の豊かさについて理解を深め、自然保護について考えたい。
7. 次 第：
司会 辻 和希（日本学術会議連携会員、琉球大学農学部教授）
 - (1) 開会挨拶
15:00～15:05 大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、
東京大学名誉教授）
15:05～15:10 大城 肇（琉球大学学長）
 - (2) 講演
15:10～16:10
・「島の甲殻類を中心とした海洋生物の研究について」
成瀬 貫（琉球大学熱帯生物圏研究センター准教授）
・「世界自然遺産候補地の琉球列島の植物：その由来と現状について」
横田 昌嗣（琉球大学理学部教授）
(16:10～16:20 休憩)
 - (3) パネルディスカッション
16:20～16:50
議題「琉球列島ーその自然の豊かさ」
パネリスト 佐藤 矩行（日本学術会議連携会員、沖縄科学技術大学院大学教授）
伊澤 雅子（琉球大学理学部教授）
横田 昌嗣（琉球大学理学部教授）
成瀬 貫（琉球大学熱帯生物圏研究センター准教授）
 - (4) 閉会挨拶
16:50～17:00
古谷野 潔（日本学術会議第二部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大
学院歯学研究院教授）

公開シンポジウム「ジェネラリストと人文学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会古典精神と未来社会分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 11 月 5 日（土） 13:00~16:30
5. 場 所：東京大学文学部 215 番教室（東京大学本郷キャンパス法文 1 号館 2 階）
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：グローバル人材とは本来ジェネラリストであり、グローバル教育とはジェネラリスト養成を目的とすべきものである。昨年開催したシンポジウムの成果を継承し、今回はより具体的に如上の観点から国家公務員試験に思想・哲学としての古典を科目として課すための方法と内容について議論する。
8. 次 第：
 - 13:00 開会挨拶・趣旨説明および問題提起
小島 毅 *（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
 - 13:30 報告 1：国家公務員総合職基礎能力試験の現状について
 猪狩 幸子（人事院人材局試験審議官）
 - 14:10 報告 2：試験問題の具体案について
納富信留 *（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
 - 14:50-15:00 （休 憩）
 - 15:00 コメント
葛西康德 *（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
 - 15:30 総合討論
 （司会）吉水千鶴子 *（日本学術会議連携会員、筑波大学人文社会系教授）
 - 16:20 閉会の辞
岡田真美子 *（日本学術会議第一部会員、兵庫県立大学名誉教授）
9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「データ・アーカイブの開発とデータ・エビデンスによる
社会科学研究」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、慶應義塾大学創造クラスター研究「多言語検索型社会データ・アーカイブの創造と利用」
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年12月2日（金）13時00分～18時00分
5. 場 所：慶應義塾大学三田キャンパス北館1階ホール（港区三田2-15-45）
6. 分科会の開催：なし
7. 開催主旨：

現在の社会科学においてデータに基づく分析が不可欠であることは論を待たない。それに関わらず、日本に社会科学で用いるデータのための体系的なデータ・アーカイブがないために、①各研究者による研究期間終了や退職に伴いデータが散逸し、研究費が非効率的に使われている、②自治体合併による自治体行政資料や一定期間経過後の判例など貴重なデータが散逸している、③国際競争への対応として、中国や韓国などが急速に学術の国際化やデータのアーカイブ化を推進する中で、日本のデータ公開が立ち後れていることが海外における日本研究衰退の一因となっている、④オープンデータの推奨ならびに研究健全化のためのデータ保存義務化に十分には対応できていない、などの問題が生じている。

こうした現状の問題点を改善するために、本シンポジウムでは社会科学のためのデータ・アーカイブについて、その概要や利用方法を実演しながら紹介する。同データ・アーカイブに収納されているデータは、第二次大戦以降の全ての衆議院議員選挙・参議院議員選挙の市区町村別選挙結果データ、国勢調査の市区町村別・メッシュ別データ、法令・判例データ、衆議院・参議院・都道府県議会の本会議及び全ての委員会の議事録データ、衆議院議員選挙・参議院議員選挙の候補者の選挙公約及び属性データ、SNSデータ、ならびにアジア諸国の法令・判例データ、国勢調査データなどである。

さらに、本シンポジウムでは、そうしたデータに基づく研究事例として行政・立法研究及び選挙・政党研究について韓国延世大学や台湾国立政治大学からの招聘報告者を交えて報告する。このシンポジウムを通じて、これからの社会科学におけるデータ・アーカイブならびにデータ・エビデンスによる研究のあり方について協議することにした。

8. プログラム

開場 12:30

開会 13:00

第1部 多言語検索型社会データ・アーカイブの創造 13:00～13:40

司会 西川 伸一*（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）

報告 小林 良彰*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

「多言語検索型社会データ・アーカイブの開発」

討論 名取 良太*（日本学術会議連携会員、関西大学総合情報学部教授）

第2部 データ・エビデンスによる行政・立法研究 13:40～15:40

司会 河野 武司*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

報告 ケネス・モリ・マッケルウェイン（東京大学准教授）

「憲法の比較分析」

報告 原田 勝孝（福岡大学准教授）、ダニエル・スミス（ハーバード大学助教授）

「中央から地方への財政移転と犯罪率の関係」

報告 築山 宏樹（東京大学、日本学術振興会 PD 特別研究員）

「地方政府の政権存続」

討論 三船 毅（中央大学教授）

討論 中谷 美穂*（日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部政治学科准教授）

休憩 15:40～16:00

第3部 データ・エビデンスによる選挙・政党研究 16:00～18:00

司会 谷口 尚子*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科准教授）

報告 サンジュン・キム（延世大学教授）

「市民社会における政党」

報告 チーアフン・ツァイ（台湾国立政治大学教授・選挙研究センター所長）

「選挙費用」

報告 ヒジノ・ケン・ビクター・レオナード（京都大学准教授）

「日本の地方選挙」

討論 名取 良太*（日本学術会議連携会員、関西大学総合情報学部教授）

討論 原田 勝孝（福岡大学准教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「科学者・技術者と軍事研究 ——科学・技術と研究者倫理にかかわる諸問題の科学史的検討——」の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会

2. 日 時：2016 年 12 月 11 日（日） 13：00～17：00

3. 会 場：明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント 1F 多目的室

4. 分科会：開催予定あり

5. 開催趣旨：

日本の科学者・技術者は、かつて第二次世界大戦で軍事研究に従事し、その結果多大な人命の喪失を引き起こした経験から、軍事研究に荷担せず、科学・技術ひいては学術は平和のためにあるべきであるという決意を固めてきた。日本学術会議も「戦争を目的とする科学の研究には絶対に従わない」という 1950 年総会の決議や、1967 年の軍事目的のための科学研究は行わないという総会決議に表されるように軍事研究を行わないという基本姿勢を堅持し科学研究の倫理的行動規範を主導してきた。

しかし、近年、防衛省からの競争的資金の提供などをめぐって軍事研究を容認するかなのような動きも出てきており、日本の学術研究の基本的姿勢を変えかねないと危惧されている。軍事研究へのスタンスのあり方を検討するには、科学・技術の発達の論理や、科学・技術の人類的意义、社会平和と科学・技術、科学者・技術者と倫理の諸問題などの広範かつ根本的な議論が必要である。一部伝えられているような「デュアル・ユース」にはバウンダリーがないという捉え方で判断される問題なのか、また学術研究の方向を時々の政治政策や軍事戦略的要求に迫られて意思決定される問題なのか、どのような問題が検討されるべきであろうか。

本シンポジウムでは、科学史・技術史、科学論・技術論、科学技術政策、研究者倫理等の分野の各方面から問題提起を行う。これまでの科学と技術、それに携わってきた科学者・技術者が学術を究め、社会にどのように向き合ってきたのか、その道程に照らして検討したいと考えている。

6. 次 第：

開会挨拶 13:00～13:05

兵藤友博*（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）

司 会： 木本忠昭*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

報告 13:05～16:00

「近年の日本学術会議での検討状況とその論点について」

小森田秋夫（日本学術会議第一部会員、神奈川大学法学部教授）

「第二次世界大戦後の日本学術会議と軍事研究問題

—1950 年代の日本学術会議やそれ以降の日本物理学会等の議論の本質は何か」

小沼通二（慶応大学名誉教授）

「軍事研究の中の科学者 —731 部隊の科学者とその現代的意味は何か」

常石敬一（神奈川大学名誉教授）

「日本の軍縮の包括的ビジョン構築の必要性」

吉岡齊*（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

「安全保障問題と軍産複合体—軍民両用技術を考える」

西川純子（独協大学名誉教授）

「軍事と科学—21 世紀社会に科学者に問われるもの」

池内 了（名古屋大学名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授）

全体討論 16:10～16:55

閉会挨拶 16:55～17:00

井野瀬久美恵（日本学術会議副第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方と其中長期戦略」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会
2. 共 催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会、
東京海洋大学、北里大学海洋生命科学部
3. 後 援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物
学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、
地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリン
バイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業
経済学会、日本藻類学会（すべて予定）
4. 日 時：平成 28 年 11 月 18 日(金) 10:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：わが国の社会は、1970 年代の高度経済成長、1990 年代のバブル崩壊に
続く、長い経済停滞期を体験したが、この変遷は農林水産業にも大きな変革をも
たらした。高度情報化時代の到来も伴って、この変化は農林漁村と都市の経済的
格差に基づく緊張した関係、わが国の人口減少も加わった農林漁村部の国土の荒
廃など、さまざまな問題を引き起こしている。とくに水産業は、主体が天然生物
資源に依存しており、漁獲量が気候変動の影響を受けやすい。また、魚価も社
会・経済の影響を大きく受け、水産業の発展、成熟を困難にしている。わが国で
は 5 年前に東日本大震災による東北地方の水産業の壊滅的被害も体験しており、
今後の持続可能な水産業を改めて問い直す時期にきている。本シンポジウムで
は、高度経済成長後の成熟、安定化社会における水産業のあるべき姿を問うため
に、漁業管理、エネルギー問題、生態系保全と沿岸社会の振興、などの観点から
現状の把握と中長期における将来展望を議論する。
8. 次 第：
 - 10:00－10:10 開会の挨拶
渡部終五*（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授）
 - 10:10－10:30 趣旨説明
埴山雅秀*（日本学術会議連携会員、北海道大学国際本部特任教授）
 - 座 長：田中次郎（東京海洋大学学術研究院教授）
 - 10:30－11:00 「持続可能な地球社会の実現に向けて」
江守正多（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球環境
研究センター・気候変動リスク評価研究室長）
 - 11:00－11:30 「日本の水産業の特徴と変遷」
八木信行*（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准

教授)

11:30-12:00 「日本周辺海域の海洋生態系に及ぼす温暖化の影響」

木村伸吾 (東京大学大学院新領域創成科学研究科大気海洋研究所教授)

12:00-13:00 休 憩 (昼食)

座 長：大越健嗣 (東邦大学理学部教授)

13:00-13:30 「漁業管理のあり方」

山川 卓 (東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

13:30-14:00 「これからの養殖」

升間主計 (近畿大学水産研究所所長・教授)

14:00-14:30 「成熟社会における地方の人口減少・高齢化の現状と問題点」

中嶋康博 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

14:30-14:45 休 憩

座 長：塚本勝巳 (日本大学生物資源科学部教授)

14:45-15:15 「水産流通・加工・市場と地域振興」

婁小波 (東京海洋大学学術研究院教授) (予定)

15:15-15:45 「日本の置かれた状況に見合った人材育成 - 海外との比較も含めて」

牧野光琢 (国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所経営経済研究センター漁業管理グループ長)

15:45-15:50 休 憩

15:50-16:50 総合討論

「成熟社会における持続可能な水産業のあり方と中長期の戦略」

司会：八木信行* (日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

パネリスト：帰山雅秀* (日本学術会議連携会員、北海道大学国際本部特任教授)

瀧澤美奈子 (科学ジャーナリスト、文部科学省科学技術・学術審議会臨時委員)

長谷成人 (水産庁次長)

中原裕幸 (一般社団法人海洋産業研究会常務理事)

16:50-17:00 閉会の挨拶

竹内俊郎* (日本学術会議連携会員、東京海洋大学学長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「IT と創薬の融合～ビッグデータとスーパーコンピューティングで
生命現象を解く～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、化学・物理系薬学分科会、
日本薬学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成 29 年 1 月 13 日（金）13：00～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

ゲノム解読がなされ、世界の創薬の潮流は分子標的薬の開発に変わってきた。疾患治療の標的となる鍵タンパク質の探索が盛んに行われているが、標的が見つかった後は、標的分子に結合し作用する化合物、抗体のスクリーニング等が行われる。低分子化合物の場合、ヒット化合物を得るためには相当数の化合物のスクリーニングが必要であり、成功の鍵は化合物ライブラリーの質と量、アッセイ系の善し悪しに関わっている。また良い創薬標的を見つけることも容易ではない。この新薬創出の多難なステップを乗り越えるための一つの方法として、ITの導入がある。ITを用いた創薬の取り組みは以前から行われてきているが、医薬品開発に必要な計算が非常に複雑、膨大であり、技術的課題がいまだ残されている。しかし、近年、スーパーコンピューターの運用が開始され、複雑な計算を高精度に行うアプリケーションが開発されるなど大きな進歩がみられており、今後の展開が期待されている。

本シンポジウムでは、最新のIT、ビッグデータを用いた薬物設計、抗体医薬、薬物動態や毒性など創薬プロセス全般における取り組み、生命現象の解明などについて、アカデミアと企業の先生方からご講演をいただき、これからの創薬に対するアプローチ、今後の方向性について考えてみたい。

8. 次 第：

13:00 - 13:10 開会挨拶

清木元治*（日本学術会議第二部会員、金沢大学医薬保健研究域医学系招聘
型リサーチプロフェッサー特任教授）

太田 茂*（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授）

座長：土井健史*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学研究科教授）

13:10 - 13:40

創薬基盤としての分子動力学シミュレーション技術

藤谷秀章（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

13:40 - 14:10

スパコン・ビッグデータ時代の創薬

奥野恭史（京都大学大学院医学研究科教授）

14:10 - 14:40

創薬の初期研究におけるデータベース構築とモデリング

水口賢司（医薬基盤健康・栄養研究所プロジェクトリーダー）

14:40 - 14:50 休憩

座長：井上純一郎*（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授）

14:50 - 15:20

インフォマティクスとシミュレーションを融合したインシリコ創薬

本間光貴（理化学研究所チームリーダー）

15:20 - 15:50

抗体創薬におけるインシリコ技術活用

白井宏樹（アステラス製薬株式会社専任理事）

座長：中山和久*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科生体情報制御学
分野教授）

16:00 - 16:30

ビッグデータがもたらす創薬のパラダイムシフト

山崎一人（大日本住友製薬株式会社シニアフェロー）

16:30 - 17:00

iOrgans テクノロジーによる生体ビッグデータ構築とその活用による

疾患の予測診断・先制治療・創薬

佐藤匠徳（株式会社国際電気通信基礎技術研究所所長）

17:00 - 17:10 閉会挨拶

堅田利明*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「生活習慣病予防のための新しい体力医学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康スポーツ分科会・生活習慣病分科会
日本体力医学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成28年9月25日（日）： 10：00～12：00

5. 場 所：盛岡市民文化ホール(マリオス内)2F 大ホール

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

健康スポーツ分科会ならびに生活習慣病分科会が共通の目的として掲げる、生活習慣病の一次予防に関して、日本体力医学会でのシンポジウムを通じて、研究者ならびに一般市民に対し最新の研究成果を公表し、生活習慣病予防における運動の役割に関する理解を深めることを目的とする。

8. 次 第：

座長：下光 輝一*（日本学術会議連携会員、公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長、東京医科大学名誉教授）

田畑 泉*（日本学術会議第二部会員、立命館大学スポーツ健康科学部教授）

血管を守り健康寿命を延ばすための血管障害をみる検査

山科 章*（日本学術会議連携会員、東京医科大学循環器内科主任教授）

動脈硬化を改善させる身体活動(運動)と効果機序

家光 素行(立命館大学スポーツ健康科学部准教授)

座りすぎを防いで健康に

岡 浩一郎(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

ウェアラブルデバイスによる身体活動評価は正確か?

宮地 元彦*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立健康・栄養研究所健康増進研究部長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*の講演者等は主催分科会委員)

公開シンポジウム「SPH（公衆衛生大学院）の今後の教育と普及に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス分科会
2. 共 催：日本公衆衛生学会
3. 後 援：公衆衛生専門職大学院連絡協議会
4. 日 時：平成 28 年 10 月 27 日（木）13：10～15：00
5. 場 所：グランフロント大阪
ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター B2F ルーム 9
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：公衆衛生学専門職大学院（School of Public Health: SPH）が、わが国に設立されて 15 年が経過した。2011 年 9 月には、日本学術会議から、提言「わが国の公衆衛生向上に向けた公衆衛生大学院の活用と機能強化」も発出されている。現在、わが国には 4 つの大学に SPH が設置されており、4 校は公衆衛生専門職大学院連絡協議会を組織し、SPH における今後の連携や教育について継続的に意見・情報を交換している。その活動の一環として、SPH の教育の現状を紹介するとともに、教育者と実務家それぞれの立場から、これからの SPH の教育に必要な内容や公衆衛生学修士（MPH）の役割について広く意見を交わす機会と場を設けることを目的として、シンポジウムを企画した。
8. 次 第：
 - 13：10 開会挨拶
小林 廉毅*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）
中山 健夫（京都大学大学院医学研究科教授）
 - 13：15 日本の公衆衛生大学院とその協議体が向かう方向
川上 憲人*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）
 - 13：35 行政と公衆衛生専門職大学院の相互交流の必要性
坂元 昇（川崎市健康福祉局医務監）
 - 13：55 公衆衛生系専門職大学院における認証評価と今後の SPH 教育について
馬場園 明（九州大学大学院医学研究院教授）
 - 14：15 世界における保健医療専門職教育の現状と日本の公衆衛生大学院教育の今後
矢野 栄二*（日本学術会議連携会員、帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授）
 - 14：35 総合討論
（司会）小林 廉毅*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）、
中山 健夫（京都大学大学院医学研究科教授）
 - 15：00 閉会
9. 関係部の承認の有無：第二部承認（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「人工知能と可視化」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本シミュレーション学会（予定）
3. 日 時：平成 28 年 11 月 30 日（水）13：00～18：00
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室
5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

2045 年、計算機がヒトの計算性能を超えることが予想され、あらためてヒトと計算機の関係が問われている。ビッグデータ時代、高性能計算機と人工知能技術が将来進展するとヒトは不要になってしまうのではないかという不安を持つ人たちも増えている。ヒトはビッグデータを効率よく認識するためには、優れた可視化技術が必要である。本公開シンポジウムでは、人工知能と可視化技術の先進事例を通して見えるヒトと計算機の新しい関係について議論を深めたい。

7. 次 第：

13：00 開会挨拶

萩原 一郎*（日本学術会議連携会員、明治大学先端数理科学インスティテュート所長、研究知財戦略機構特任教授）

13：10 趣旨説明

小山田 耕二*（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

13：20 「科学的可視化とデータ駆動科学」

司会 藤代一成（慶応大学理工学部情報工学科教授）

岡田 真人（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

14：20 「急速な人工知能技術発展による第四次産業革命の到来と可視化の重要性」

司会 伊藤貴之（お茶の水女子大学理学部情報科学科教授）

岡田 陽介（株式会社 ABEJA（アベジャ） 代表取締役 CEO）

15：20 「データ駆動型解析による生命科学の革新と可視化の貢献」

司会 小山田 耕二*（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

大浪 修一（国立研究開発法人理化学研究所生命システム研究センター発生動態研究チームチームリーダー）

16：20－16：30 （ 休憩 ）

16：30 パネル討論 「ヒトと計算機の共進化」

司会：中島憲宏（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構システム計算科学センター副センター長）

話題提供 1 「ビッグデータ活用による海洋・地球・生命の統合的理解（仮）」
高橋 桂子*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センター センター長）

話題提供 2 「スポーツにおける心理と生体、データ分析の一体化（仮）」
加藤 千恵子（東洋大学総合情報学部教授）

話題提供 3 「ビッグデータ向け位相解析とその応用（仮）」
竹島 由里子（東京工科大学メディア学部准教授）

18：00 閉会挨拶

吉村 忍*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創生学専攻教授、工学系研究科副研究科長）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「第6回計算力学シンポジウム」の開催について

- 1 主催：総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会
- 2 共催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理工学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合（予定）

3 日 時：平成28年12月5日（月） 10：00 ～ 17：30

4 場 所：日本学術会議講堂 外2室

5 分科会の開催：開催予定

6 開催趣旨：

第Ⅰ部では、我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手が最新の成果を披露する。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会である。第Ⅱ部では、現在学術会議において作成が進められている「計算力学参照基準」について、検討状況を紹介するとともに議論を行い、その結果をフィードバックし「計算力学参照基準」づくりに活かして行く。

7 次 第：

総合司会：吉村忍*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授、工学系研究科副研究科長）

10：00-10：10 開会の辞

矢川元基*（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会会長、東京大学名誉教授）

第Ⅰ部 若手研究者による講演 10：10-15：40

10：10-10：40 講演 1（日本計算数理工学会）

奥村 大（大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻准教授）
「ゲル材料の膨潤誘起不安定解析」

10：40-11：10 講演 2（特定非営利活動法人 CAE 懇話会）

内藤正登（住友ゴム工業株式会社研究開発本部研究第一部主査）
「次世代高性能タイヤ開発のマルチスケール・シミュレーション」

11：10-11：40 講演 3（一般社団法人日本機械学会計算力学部門）

山田崇恭（京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻助教）
「トポロジー最適化の新展開」

11：40-12：10 講演 4（一般社団法人日本計算工学会）

加藤準治（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻准教授）
「マルチスケルトポロジー最適化と積層造形への展開」

12：10-13：40 昼休み

13：40-14：10 講演 5（日本計算力学連合）
大西有希（東京工業大学工学院システム制御系助教）
「四面体を用いた平滑化有限要素法による大変形解析の最新動向」

14：10-14：40 講演 6（日本シミュレーション学会）
後藤和哉（合同会社 PExProCS（ペックスプロックス）代表）
「大規模アセンブリ構造解析のための多点拘束条件処理手法」

14：40-15：10 講演 7（一般社団法人可視化情報学会）
八木佐也香（日本電信電話株式会社アクセスサービスシステム研究所研究員）
「Storyline を適用した連続数値型時系列データ可視化の一手法」

15：10-15：40 講演 8（一般社団法人日本応用数理学会）
高安亮紀（筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻助教）
「常微分方程式の爆発解に対する数値的検証法」

15：40-16：00 休憩

第II部—パネル討論 「計算力学参照基準について」 16:00-17:20

パネラー 萩原一郎*（日本学術会議連携会員、明治大学先端数理科学インスティテュー
ト所長、研究知財戦略機構特任教授）
越塚誠一*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創
成学専攻教授）
平野 徹（ダイキン情報システム株式会社顧問、特定非営利活動法人 CAE 懇話
会理事長）

17：20-17：30 閉会の辞
萩原 一郎*（日本学術会議連携会員、明治大学先端数理科学インスティテュ
ート所長、研究知財戦略機構特任教授）

8 関係部の承認の有無： 第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）